

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいポケットにしわき		
○保護者評価実施期間	2024年11月5日		～ 2024年11月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30人	(回答者数) 16人
○従業者評価実施期間	2024年12月2日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全職を有資格者で配置しており、生活動作の習得や集団生活の適応、生活能力の向上や社会性の習得を目標に、本人支援・ご家族支援を行うことができます。	様々な年齢や特性のあるお子様同士が、基本的な挨拶ややりとりなどの生活習慣の形成はもちろんのこと、他者意識を高めたり自己肯定感がもてるように支援しています。	年間教育研修計画のとおり実施し、さらなる職員のスキルアップを図ります。
2	児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能型であるので、児童発達支援ではライフステージの変化に合わせた対応が可能であり、環境に変化なくスムーズな就学移行を目指せると考えます。	児童発達支援においては、他者認知や食事・排泄等の生活能力の向上を目指しています。また、年長児においては、個々に合わせながら、就学に向けての取り組みを行っています。	個々の療育内容を細分化し、さらに寄り添った支援を図ります。 また、年齢や生活環境に合わせたプログラムを探求していきます。
3	正峰会グループには就労継続支援A型、就労継続支援B型があり、放課後等デイサービス終了後も住み慣れた地域で、途切れない支援が実施できます。	放課後等デイサービスにおいては、生活能力の向上はもちろんのこと、学習支援も行います。また、中高生には、継続できる力を養うことで、現場実習や就労支援につながるよう努めています。	

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	身体に障害のあるお子様の受け入れが難しくなっています。	事業所が2Fにあり、階段での将校となりバリアフリー化がされていないことが要因にあげられます。	可能な限りの昇降方法を検討し、幅広いお子様にご利用いただけるように務めます。
2	保護者会の開催を試みるものの、うまく日程調整ができていません。	お子様をつれての来所をご希望される方も多くなるかと予測するため、お子様の見守り職員の確保が難しい面があります。また、保護者もご多忙であり、出席希望を多く募れないことが現状となっています。	どのような開催方法がベストであるが今後も検討してきます。
3			